

審査結果

1 審査結果

設計者の選定は、教育及び建築の専門家等で構成された「山形県立上山高等養護学校・山形盲学校改築整備事業設計業務公募型プロポーザル方式設計者選定委員会（以下「選定委員会」という。）において、厳正な評価を行い、評価点が最上位である者を最優秀者に特定し、次に評価点が高い者を優秀者として特定した。

<最優秀者>

安井・鈴木建築設計共同体

<優秀者>

株式会社本間利雄設計事務所

2 審査経過

本プロポーザルは、延床面積 6,000 m²以上の教育施設の建築設計業務の実績を有する建築士事務所であること等を参加資格要件として公募を行った。その結果、7者からの参加表明があった。

選定にあたっては、第一次審査、第二次審査の2段階の審査とし、選定委員会で厳正な評価を行った。

なお、審査の公平性を保つため、参加者の名称は伏せ、「整理番号」により審査を行った。

(1) 選定委員会開催日程

令和5年5月15日 第1回選定委員会

・募集要領、技術資料・技術提案書の審査方法及び審査基準を決定

令和5年6月29日 第2回選定委員会

・第一次審査（書類審査）により第二次審査参加者を決定

令和5年9月7日 第3回選定委員会

・第二次審査（ヒアリング）を行い、最優秀者及び優秀者を特定

(2) 第一次審査（第二次審査参加者の選定）

第一次審査では、参加者から提出された参加表明書及び技術資料について書類審査を行った。

①参加資格及び失格基準の該当の有無について、事務局から説明を行い、各委員はその内容について確認を行った。

②技術資料評価項目の「資格」（専門分野の技術者資格）、「技術力」（各技術者の同種・類似業務実績）について事務局から算定結果を説明し、各委員はその評価点数について確認を行った。

③評価点数の合計点の上位5者を第二次審査（ヒアリング）参加者に選定することを委員全員一致で決定した。

※第一次審査採点の集計結果（70点満点）

評価点順位	1	1	1	4	5	6	7
第一次審査 評価点	70.00点	70.00点	70.00点	65.00点	57.60点	50.00点	45.00点

（3）第二次審査（最優秀者の特定）

第二次審査は、第二次審査参加者から提出された技術提案書に基づいてヒアリングを実施した。ヒアリングは整理番号順に提案者からのプレゼンテーションを20分以内、質疑応答を20分以内で行った。

各委員が技術提案書及びヒアリングの内容を踏まえ、総合的に評価した内容について意見交換を行い、評価に対する認識を共有した上で技術提案書評価基準に基づき評価を行った。

◇第二次審査採点（「業務の実施方針及び手法」）の集計結果

（130点満点）・・・【A】

整理番号	1	2	3	4	5
第二次審査 評価点	79.00点	43.60点	69.80点	69.60点	89.20点

上記のヒアリング審査の結果に、第一次審査の評価点を加えたものを各提案者の最終評価点として算定した。

◇一次審査採点（「資格及び技術力」）の集計結果（70点満点）・・・【B】

整理番号	1	2	3	4	5
第一次審査 評価点	65.00点	70.00点	70.00点	57.60点	70.00点

◆最終審査採点【A+B】

整理番号	1	2	3	4	5
「最終評価点」 集計結果	144.00点	113.60点	139.80点	127.20点	159.20点

以上により、最終評価点集計結果から、最も評価点の高い整理番号5（安井・鈴木建築設計共同体）を最優秀者に特定することとし、次いで点数の高かった整理番号1（株式会社本間利雄設計事務所）を優秀者に特定することを、委員全員一致で決定した。

3 審査講評

(1) 総評

山形県立上山高等養護学校と山形県立山形盲学校は、両校とも校舎建築後 50 年が経過しており、施設の老朽化が著しい他、耐震上留意しなければならない棟があるなどの課題があった。

これらの課題を解決するため、令和 2 年 8 月に策定された「特別支援学校の校舎等整備計画」に基づき、改築整備を行うこととされており、生徒が安心して学べる安全性と機能性を備えた施設を整備するために、創造性、技術力などに優れた設計者の選定を行った。

選定委員会は教育及び建築の専門家等から構成されており、それぞれの専門の立場から、今回の改築設計業務に最もふさわしい優れた設計者を選定するため、技術資料、技術提案書の評価、ヒアリングを通して厳正かつ公正な審査を行い、最優秀者と優秀者を特定した。

審査においては、1) 専門分野の技術者資格、2) 平成 25 年 4 月 1 日から公告日の前日までに実施（業務委託契約を締結し、現在業務を行っているものも含む）した同種又は類似業務の実績（実績の有無及び携わった立場）、3) 業務の理解度及び取組意欲、4) 業務の実施方針、5) 評価テーマに対する技術提案について慎重かつ厳正に評価を行った。

なお、5) 評価テーマは以下の 3 つの項目に関する考え方の提案を求める形で構成されている。

- 1 安心して学べる安全な学校施設整備
- 2 敷地の条件や周辺環境及び気候に配慮した敷地内配置計画
- 3 カーボンニュートラルの実現と将来に渡る建物維持管理費用等のコスト縮減に配慮した施設整備

本プロポーザルに参加された 7 者はいずれも学校建築に関する深い経験、優れた知識・技術を有する設計者であり、第二次審査参加者 5 者から提出された技術提案書はいずれも提案課題をよく読み込んだ優れた内容であった。

いずれも魅力的な新校舎が実現することを期待させる内容であり、順位付けをすることは難しい作業であったが、特別支援学校の特性や施設計画に対するコンセプト、提案内容的確性、独創性、実現性などを中心に技術提案書、プレゼンテーション・質疑応答の内容を評価して厳正に審査を行った結果、最優秀者として整理番号 5 を、優秀者として整理番号 1 を特定した。以下、それぞれの者の特徴について講評を述べる。

(2) 個別講評

最優秀者 整理番号 5（安井・鈴木建築設計共同体）

本業務における課題や条件を丁寧に把握した上で、各評価テーマに対し多彩な取り組み、仕掛けが施され、積極的な取組み姿勢が見られた。かつ、内容がよく整理され、分かりやすさが際立ったものとなっている点が高く評価された。

また、コストを抑えた構造計画の検討や、設計、施工、維持管理に渡る BIM の活用提

案等、コスト縮減に配慮した提案が充実している点も高く評価された。

搬入車両の経路について、児童生徒の動線との整理が必要等の課題はあるが、ヒアリング時の丁寧かつ真摯な姿勢が評価され、課題に対しても確実に業務遂行を期待できる点が高く評価された。

優秀者 整理番号 1（株式会社本間利雄設計事務所）

本改築整備事業の概要をよく理解しており、全体を通し、実現性が高い内容となっていた点が評価された。

特に、具体的な建替計画や、ZEB Oriented に準拠したエネルギー負荷低減の考え方は実現性が高いと評価された他、インクルーシブ教育についてよくまとめられていたと評価された。

配置計画における児童生徒の空間認識への配慮や、浸水対策等に課題が見られたが、ヒアリング時の質疑に対する回答において、丁寧に取り組む姿勢が感じられた点が評価された。

最後に、本プロポーザルの参加者に対し、技術提案書の作成等に多大な時間と労力を費やしていただいたこと、また、短い準備期間にも関わらず、意欲的な提案をしていただいたことに、心から感謝を申し上げます。

令和5年9月22日

山形県立上山高等養護学校・山形盲学校改築整備事業
設計業務公募型プロポーザル方式設計者選定委員会
委員長 佐藤 慎也